

2019 年度第 2 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2020 年 2 月 11 日（火・祝）10：00～16：00（受付 9：30～）
会 場： 京都リサーチパーク（京都市下京区中堂寺栗田町 93）

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2019年度第2回の全国研修会は、京都リサーチパークで開催させていただきます。全体講演では、京都大学大学院教育学研究科の松下姫歌先生に、「見えない力に出会うー“欠損”・“ネガティブ”イメージのポテンシャル」という演題で、お話して頂きます。私たちはどのように「見えない力に出会う」のか、そしてその「出会い」からどのような「秘められた可能性」が開示されてくるのか、多岐に楽しみます。とりわけ「欠損イメージ」「ネガティブイメージ」から開かれてくるものに、こころを添わせてみたいと思います。

今回も7つの分科会を設けております。そのうちの1つは箱庭制作実習の分科会です。地区研修会で実施しています箱庭制作実習を、折に触れて、全国研修会でも実施することにしてあります。どうぞご参加下さい。また6つの分科会のうちの1つでは、全体会に引き続き、松下先生が「“欠損”・“ネガティブ”イメージに内包されるもの」というタイトルで事例を募集しておられます。全体会での話をより深めることができるかと思っております。その他の分科会も、とてもユニークで興味深いタイトルの分科会となっております。皆さまの学びにお役に立てることと思っております。

皆さまの奮ってのご参加を心よりお待ちしております。

2019 年 12 月 吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 川戸 圓

<開催要領>

1. 定 員：300 名
2. 参加資格：以下の条件のいずれかを満たす方とします。
 - ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
 - ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
 - ③箱庭療法を導入・または導入を検討中の学校等教育機関の保健・養護領域に従事されている方
 - ④臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方
 - ⑤心理臨床を専攻する大学院生
3. 参加費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円
4. 研修ポイント：本研修会への参加は、臨床心理士教育・研修規程別項第 2 条（3）により、一般参加者は 2 ポイント、事例呈示者は 4 ポイント取得となります。

5. 研修内容

(1) 全体会：10：00～12：00

テーマ：「見えない力に出会うー“欠損”・“ネガティブ”イメージのポテンシャル」

講師：松下 姫歌 氏（京都大学大学院教育学研究科）

概要：

人間は、自我による把握理解力の発達の一方で、獲得した理解に縛られてしまう不自由さも抱えています。分析心理学はこうした自我の囚われをスーパーヴァイズする無意識の力を見出し扱ってきました。近年は、認知行動療法にも無意識へのアプローチ法との折衷的立場が生まれています。しかし、オリエンテーションを問わず、“無意識を扱ったつもりで、自我の把握内容の回収に終始している”例もしばしば見られます。それは、クライアントに“欠損”イメージや“ネガティブ”イメージが呈される際に生じがちです。今回は、“欠損”・“ネガティブ”イメージへのアプローチとそのポテンシャルの発見について、具体例を交えつつ考えていければと考えています。

(2) 分科会：13：00～16：00

以下の7グループに分かれ、分科会を行います。

事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「6. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● 第1分科会 猪股 剛（帝塚山学院大学/猪股分析プラクシス）

「こころの媒介をする物たち一箱庭療法の宇宙一」

今回検討をするケースについて、“苦しみ悩んでいることに問題を焦点化し、具体的にどうしていけばよいかを考える”という初心者の頃に持っていた心理療法のイメージを変えてくれたケースだとセラピストである藤元先生は言われます。心理療法や特に箱庭療法は、直接的に現実的な問題を扱って具体的な解決や適応を提示する営みではありません。それは問題に対するととても間接的な取り組みですが、間接的/媒介的だからこそ立ち現れてくるものがあり、間接的/媒介的だからこそ直接には触れることのできない心というものに触れ、それが変容する可能性があるのでしょうか。本分科会では、このような心理療法の特質を『盆栽の宇宙誌(原題:極東の小型の庭-世界の縮図-)』と『トポスの知』をテキストにして概観したのち、藤元先生の事例の検討を通じて心理療法/箱庭療法に息づく媒介する物たちの精神に触れていきたいと思えます。(事例提供者：藤元早希氏)

● 第2分科会 河合 俊雄（京都大学こころの未来研究センター）

「訴え・症状の曖昧なクライアントにおけるイメージの意味」

最近、はっきりとした症状や訴えを持たずに、心理療法を受けにくるクライアントが多いように思われる。その時に夢や描画などのイメージを用いると、ズレや曖昧さが明らかになると同時に、主体性が生まれてくる可能性がある。事例に沿って検討してみたい。(事例提供者：高嶋雄介氏)

● 第3分科会 北口 雄一（北口分析プラクシス）

『感情に焦点を当てること』と『イメージを聞くこと』との違いについて」

心理療法は、古典的には神経症の治療として始まり、そこでは、感情を抑圧するのではなく自我で抱えられるようになることが目指されてきました。現在でも、カウンセリングとは気持ちを聞くものだ、と誰もが思っています。しかし、自我が脆弱であったり、未熟である場合、治療者が感情に焦点を当てると、クライアントは溢れた感情を自我で抱えることができません。それに対して、イメージの利点は、治療者があえて感情に焦点を当てなくても、イメージが現れた際にそこに感情が表現されているところです。今回の分科会では、「感情に焦点を当てること」と「イメージを聞くこと」との違いに目を向けたいと思えます。(講師が事例を提示)

● 第4分科会 桑原 知子（京都大学大学院教育学研究科）

「箱庭療法に「触れる」こと」

心理臨床の場で、いつも箱庭が置かれるわけではない。クライアントは、そして、セラピストはどのようにして箱庭に「触れる」のだろうか。その契機となるものはどのようなもので、逆にそれを阻むものは何か。あるいは、どのように箱庭に触れ、また、触れないのだろうか。今回のワークショップでは、箱庭療法の原点に立ち戻り、人が箱庭に「触れる」ところを考えてみたい。事例を募集します。このテーマに触発されるような事例であれば、どのような事例でも構いません。<事例募集>

● 第5分科会 前川 美行（東洋英和女学院大学）

「セラピストの能動的コミットについて」

心理療法では、セラピストはクライアントの心の動きを感受し、夢や箱庭、描画などのイメージとともに味わいながら、話を聞くことが求められる。それはセラピストにとって決して受動的な営みではなく、言葉を返し、問いかけ、関心を向ける能動的・主体的な営みではあるが、あくまで伴奏的・合いの手的なものである。一方、セラピストの能動的なコミットがクライアントの「私」の誕生や転回に不可欠な場合があることもわかってきた。それは、どのような能動性なのだろうか。そこで本分科会では、「する／ある」「しない／いない」を軸にセラピストの能動性について考えてみたい。（事例提供者：西牧万佐子氏）

● 第6分科会 松下 姫歌（京都大学大学院教育学研究科）

「“欠損”・“ネガティブ”イメージに内包されるもの」

箱庭、描画、夢を含む、心理療法のいとなみに生じる語りにおいては、“欠損”イメージや“ネガティブ”イメージがさまざまに表現されうる。これらのイメージには、一見する以上に、ディテールに無意識的自己による視点が埋め込まれていて、それらに目を向け受けとめていくことが、クライアントの自己の生きる次元に参入していくことにつながりうる。また、ディテールどころか像すらない欠損イメージや、漠たるネガティブイメージである場合も、それへの向き合い方によって、イメージが生きて動き出すことにつながりうる。こうした“欠損”・“ネガティブ”イメージに内包されるものについて、じっくり向き合う機会としたい。＜事例募集＞

● 第7分科会 川戸 圓（川戸分析プラクシス） 高月 玲子（天理大学）

「箱庭制作実習」

箱庭療法を行うためには、箱庭療法について理論的に学ぶだけではなく、実際に自らも＜箱庭を制作する＞体験、つまり見守られることを含む体験を積んでおくことが重要である。日本箱庭療法学会では、全国研修会と地区研修会という2種類の研修会を設けているが、全国研修会はどちらかといえば理論的な学びに重きを置き、地区研修会は実際的かつ体験的な学びに重きを置いている。この2つが融合的に機能することが最も大事なことなので、全国研修会においても、折に触れて、分科会の1つとして＜箱庭制作実習＞を取り入れる試みを行なっている。今回はその試みの第二弾である。言葉ではない「心の表現」に関心を持ち、「箱庭療法」に体験的に近づきたいと思っておられる方々はぜひご参加下さい。なお、制作された「心の作品」をカメラに収めておきたい方は、カメラをご持参下さい。

※この分科会は、クリエイションアカデミー（メルコム）社より箱庭用具の一部をお借りして行います。

各分科会の会場につきましては、当日受付にて配布のプログラムにてお知らせいたします。

6. 参加・発表申し込みについて

WEBによる参加・事例発表申込方法

【参加申込】

当会ホームページ（<http://www.sandplay.jp/training.html>）および右記QRコードの申込フォームよりお申し込み下さい。申込が完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、一般社団法人日本箱庭療法学会事務局（office@sandplay.jp）までお問い合わせ下さい。



【事例発表申込】

上記と同様の申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある＜事例概要記入シート＞にご記入の上、メール添付でoffice@sandplay.jpまでお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※＜事例概要記入シート＞は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。

FAXによる参加・事例発表申込方法

※メールアドレスをお持ちの方は、WEBからのお申し込みを推奨します

【参加申込】

同封の参加申込書所定欄に必要事項をご記入の上、一般社団法人日本箱庭療法学会事務局（06-6233-8529）へFAXにてお申し込みください。お申し込みを事務局で確認でき次第、受領FAXを送信いたします。返信FAXが届かない場合は、事務局までお問い合わせください。

【事例発表申込】

参加申込書裏面に必要事項をご記入の上、参加申込とあわせてFAXをお送りください。

※ 事例発表申込締切：2020年1月8日（水）【必着】

※ 参加申込締切：2020年1月22日（水）【必着】

- ・お申し込みは、原則として先着順とさせていただきます。
- ・分科会コースの通知はおこなわず、お申し込みいただいた分科会で受けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。また、希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、予めご了承ください。

7. 参加費振込みについて

- ・自動返信メールもしくは、返信FAXを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

振込先： ゆうちょ銀行振替口座 00900-8-233788

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

- ・振替用紙の通信欄には、「2019年度第2回全国研修会参加費」とご記入ください。
- ・納入された参加費のご返金はできませんので、予めご了承ください。
- ・振込締切までに入金を確認した方には、1月下旬に分科会番号・名前等の記載された名札カード・名札ケースをお送りいたします。当日は名札・名札ケースをご持参いただき、身に着けてご参加ください。
- ・振込締切以降に参加費を入金された場合は、研修会当日に受付で名札をお渡しいたします。

※ 参加費振込締切：2020年1月27日（月）

8. 研修ポイントについて

全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。名札が研修証明書の代わりになりますので、大切に保管してください。

9. 会場案内

京都駅よりJR嵯峨野線（山陰線）1駅丹波口駅下車 西へ徒歩5分

※その他のアクセスについては、京都リサーチパークホームページをご参照ください。[\(https://www.krp.co.jp/access/\)](https://www.krp.co.jp/access/)

10. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会事務局
住所：〒541-0047 大阪市中央区淡路町
4-3-6 新元社内

FAX：06-6233-8529

E-mail：office@sandplay.jp

